

本校では、勤労青少年への支援に加えて、不登校経験者や再チャレンジを目指す生徒の学び直しの場、また、将来の進路を決めかねている青少年には、居場所と自らのキャリアを考える機会の提供など、多様な役割を積極的に果たすことを目指し、全教職員による組織的取組を推進してきた。今年度の結果を検証し、次年度へ反映させ学校全体で取り組んでいく。

1 今年度の取組と自己評価	
(1) 教育活動への取組と自己評価	
①学習指導	
(ア)	すべての教員が「聞く」「話す」「読む」「書く」等の言語能力を身に付ける授業を実践し、検定試験等への挑戦を通して基礎学力の定着度を把握するとともに、レポートにまとめるなど「考える力」を身に付けさせた。 英語検定、歴史検定、農業技術検定、食品衛生責任者、漢字検定の受検指導まで幅広く関わった。
(イ)	授業時のみならず、授業前や放課後、オンラインも活用して補習授業を展開し、学びの継続性を図るとともに、基礎基本の定着と確かな学力の増進を図った。 定期考査の前後の補習で成績アップをはかり、学習の習慣を定着させるよう指導をした。
(ウ)	各科目において、生徒一人一人に達成目標を設定させ、日々の授業や授業前後の補習時にきめ細かい指導することにより、全ての生徒が全科目を修得できるような指導を行った。 昨年度は特に定期考査後に手厚い指導を行ったが、今年度以降は考査前の指導の充実を図り、全ての生徒が自ら単位修得できるようにした。
(エ)	授業時のみならず、オンライン上に授業の資料を載せるなど ICT 機器を積極的に活用し、個々に応じた丁寧な指導を進め、生徒にとって学ぶ楽しさへつながる分かる授業を実施した。
(オ)	教員相互の授業参観を実施し意見交換を行うことで、OJT を活用した授業力の向上への取り組みを推進するとともに、SDGs を取り入れた教材を使い研修を実施し、基礎学力の定着と確かな学力の増進につなげた。
(カ)	漢字検定、英語検定、歴史検定、農業技術検定、食品衛生責任者の受検をとおして、資格取得の大切さと難しさを学ばせるとともに、農業科の校内販売実習を瑞高祭時に実施するなど職業観を育成した。
(キ)	総合的な探究の時間や農業科の課題研究の中で、プロジェクト学習やプロジェクト研究活動に取り組みせ、生徒の思考力、判断力を培い、学内での研究発表会での発表を通して表現力を育成した。特に低学年時では、必要な資料の検索とまとめ、PowerPoint の資料作成の指導に力をいれた。
(ク)	農業科の授業の中で、東京都 GAP など安全・安心な食料の持続的な生産と供給に対応した生産工程管理に関する教育に取り組んだ。
(ケ)	アクティブ・ラーニング型（主体的・対話的で深い学び）の授業やルーブリック評価を取り入れ、基礎的な学力の定着、振り返り及び「考える力」を身に付けさせる授業展開を行った。特に各教科の授業内において「教員と生徒」「生徒と生徒」といった双方向の討論形式の時間を多く取り入れた。
(コ)	Microsoft Teamsを活用し、授業時の板書や課題、授業プリントなどの資料掲示を行い、オンライン授業を実施するなどの学習展開を行った。特に「課題提出」や「生徒同士の情報交換」「教員からの漏れの無い連絡」に活用できた。
(サ)	持続可能な社会づくりに向けた教育のために、4「質の高い教育をみんなに」をはじめ、1「貧困をなくそう」、7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」など、SDGs を取り入れた授業を実施した。また、12「つくる責任、つかう責任」達成のために、給食で出た残菜をコンポストで堆肥にしてトマトを育成するなど、循環型社会達成のための取り組みも積極的に行った。
②生活指導	
(ア)	生活指導指針の共通理解を図り、規範意識を醸成させた。さらに、本校定時制課程特別指導計画に基づき「反省」「改善」を促す指導を行った。
(イ)	遅刻指導に全職員で取り組み、時間厳守の習慣を身に付けさせ、年間30回以上の遅刻者数を10人未満とする目標を達成できた。令和6年度は30回以上の生徒は2名。
(ウ)	個人面談や毎日の教員による打合せ、教育相談委員会を通して生徒の動向を教員全員で把握し、日々の学校生活を生徒が安心して生活できるよう努めた。
(エ)	生徒の状況把握と情報交換を日々実施し、機を逸しないきめ細かな指導を継続的に行った。
(オ)	人権教育や生命を大切にする教育、セーフティ教室を7月、12月及び3月の計3回実施し、生命を尊重する心や思いやりの心を育み、いじめ0につなげることができた。

(カ)	瑞穂町と連携した防災訓練を実施するとともに、交通安全・防犯、薬物乱用防止について全校集会や各学期の終業式の時間に指導した。また、安全教育を推進するとともに、公共の場や交通のルールやマナーを守る意識を高めたことで、命に係わる事故発生率を0%にすることができた。
(キ)	体罰等不適切な指導を根絶するため、教員向けの研修会を7月、12月の計2回実施し、教員が率先して暴力、暴言を否定する心を醸成することで、いじめのない学校を実現した。
(ク)	部活動を活性化するため、学校HPやX(旧twitter)で情報発信を行った。
③進路指導	
(ア)	キャリア教育を推進し、自己の在り方、生き方を見つめさせ、自ら進路を切り拓く力を育成した。
(イ)	進路ガイダンス等を充実させ、進路に対して具体的な目標をもたせるとともに、公務員講座やレディネステストを実施するなど、卒業から逆算して今やるべきことを生徒に考えさせた。
(ウ)	入学から卒業までの進路指導計画を作成し、組織的・計画的・系統的な進路指導を実施した。
(エ)	進学に関する学費・奨学金ガイダンスを行うなど、生徒及び保護者に対して情報提供を行った。
(オ)	確実な公文書（調査書、推薦書）作成するためチェックシートを作成し、必要書類を複数の目で確認した。
④特別活動・部活動	
(ア)	生徒会役員に生徒会役員選挙、学習成果発表会及び瑞高祭や送別会等の企画・運営を行わせ、生徒が主体的に活動できる学校行事を展開した。
(イ)	事前指導を十分に行った上で、奉仕やボランティア活動等の体験的な活動を奨励し、社会性や公共心を高め、時と場に応じた身なりや所作がしっかりとできる態度を養った。
(ウ)	年間を通して、計画的なホームルーム活動を実施し、教員と生徒の緊密な関係を通して集団活動の意義と大切さを自覚させた。
(エ)	全学年が、瑞高祭や送別会に携わり、生徒の学校行事への参加を促した。
(オ)	校外学習等の学校行事や球技大会等への参加を促し、健康及び体力向上を図った。
(カ)	授業満足度向上に向けて、積極的にMicrosoft TeamsやForms等を活用した授業展開を行い、デジタル技術を活用した教育を推進した。
⑤募集・広報	
(ア)	学校HPやX(旧twitter)を活用し、積極的に学校生活の内容を発信した。また、長期休業中に中学校訪問を実施するなど、広報活動を可能な限り実施し、一次応募倍率1倍以上を目指した。
(イ)	入学者用学校案内を一新し、中学生が読みやすいように工夫を凝らし、約1000部配布した。また、夏休み中に全教員が分担し中学校訪問を行った。隣接市町村のほぼ全ての中学校（山間部を除く）36校と電話での案内を4校、計40校と直接連絡をとることができた。
⑥健康促進	
(ア)	日常の生徒指導をはじめ、健康診断、保健講話、コンディションレポートを通し、生徒の心と体の健康づくりを行った。
(イ)	スクールカウンセラーを活用した教育相談活動を進め、心の悩みを抱える生徒に的確に対応するとともに、校内研修会を3学期に実施し、教員のカウンセリング能力を高めた。
(ウ)	「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を踏まえ、体育の授業のみならず、球技大会を活用し生徒の体力向上に対する取り組みを推進した。
(エ)	Microsoft Teamsや全校集会を通して、SOSの出し方に関する教育、心の健康の保持に係る教育を推進した。
(オ)	通知等の資料を活用し、通級による指導体制を組織的に構築する準備を進めた。
(カ)	保健だよりをMicrosoft Teamsにて定期的に配信し、保健教育を推進した。
(キ)	教室の換気や食堂での手洗い等、新型コロナウイルス感染症の基本的な対応を徹底した。
⑦学校経営・組織体制	
(ア)	企画調整会議や職員会議、校内研修を通して、教職員の協働態勢を醸成し、教師力を向上させた。
(イ)	生徒一人一人へのきめ細かな指導を通して、中途退学者を減少させる努力を行った。
(ウ)	経営参画ガイドラインを活用して、経営企画室職員の経営参画を推進した。
(エ)	ライフ・ワーク・バランス推進体制を構築して、定時退庁に取り組んだ。

(2) 重点目標と方策		
① 学習指導	(ア)	丁寧な学習指導はもとより補習・補講を計画的に行い、基礎的な学力を身に付けさせ、希望進路の実現を図るとともに成績不振による中途退学や原級留置者を減少させることができた。
	(イ)	長期休業日中に補講を5講座実施し、延べ14人以上の受講者に指導することができた。
	(ウ)	SDGs17項目の持続可能な開発目標より各教科が単元に応じてテーマを選択し、授業を実施できた。
② 生活指導	(ア)	授業開始のチャイムとともに授業を開始することで、生徒に「時間を守る」意識を育成する指導を行い、授業規律や礼節の指導を徹底するとともに、社会の一員としての自覚を促す指導を行った。
	(イ)	面談週間を活用し、個々の生徒に合わせたきめ細かい声掛けや面談を行い、学校不適応や問題行動等による中退者を出さない取組を行った。
	(ウ)	1日1クラスあたりの遅刻者数を2.0人未満とするとともに、年間30回以上の遅刻者数が10人未満を目標に指導を行った。
	(エ)	言葉遣い、態度や集会における指導を通じて、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションができる生徒を育成した。
	(オ)	登下校時の公共の場や交通ルール・マナーを徹底して指導し、交通事故0を目標に指導を行った。交通事故0件。
	(カ)	いじめ防止アンケートを実施して、いじめの早期発見に努め、いじめを根絶する指導を行った。いじめ件数0件。
	(キ)	私物の管理意識を向上させ、物品紛失をさせない指導を行った。個人ロッカー施錠の徹底(ロッカーの施錠率100%を目標)を指導した。
	(ク)	L I N EやX(旧twitter)等による誹謗中傷、いじめ嫌がらせ防止の指導を定期的に行った。
	(ケ)	授業等で教室移動があることから、SDGsの観点により節電を促す指導を行った。
③ 進路指導	(ア)	生徒個々の適性や希望に合わせた進路指導を徹底し、進路未決定のまま卒業する生徒を無くす
	A	進学希望者全員に対して、進学先に応じた入試対策となる学習指導や面接指導など必要な指導を行った。
	B	就職希望者には第一希望の職場に内定できるよう、企業説明会に参加させ、礼節指導をはじめとする就職活動に必要な指導を行った。
	(イ)	4年間を見通した計画的なキャリア教育
	A	あらゆる教育活動においてキャリア教育を推進し、自己の在り方生き方を考えさせるとともに、望ましい勤労観・職業観を育み、主体的に進路選択を行える生徒を育てるよう指導を行った。
	B	4年間を見通した学びのロードマップを作成し、組織的・計画的な進路指導を行い、進学や就職など、全ての生徒の希望進路の実現を目指した。
	(ウ)	点検機能の充実
	A	作成者のみならず、複数人による点検を行い、公文書・私文書の記載ミスをなくした。
④ 特別活動 部活動	(ア)	年間を通して、全学年が学習成果発表会や校外学習への事前指導を行う等、学校行事への参加を積極的に促す指導を行った。
	(イ)	広報の一環として、部活動年間計画及び活動報告を学校HPやX(旧twitter)を活用して情報発信した。
	(ウ)	瑞穂町の里山民家と連携しながら、計画的かつ実践的な奉仕体験活動を実施し、社会性を向上させる指導を行った。
	(エ)	全クラスが学習成果発表会で発表するなど、学校行事への参加を促す指導を行った。
	(オ)	部活動年間計画及び活動報告を学校HPやX(旧twitter)を活用して情報発信した。
	(カ)	瑞穂町の里山民家と連携した奉仕体験活動を実施し、社会性を向上させる指導を実施した。
⑤ 募集活動 広報活動	(ア)	学校HPやX(旧twitter)の更新を積極的行い、地域貢献や学校情報を提供して、本校への理解を深める機会を増やした。
	(イ)	取り組んでいる募集活動関連のデータを精査した。
⑥ 健康促進	(ア)	二者面談を実施し、生徒の状況を把握するとともに、丁寧な家庭連絡を行うことで家庭と情報を共有化した。

	(イ)	教育相談委員会を定期的に開催し、特別な支援を必要とする生徒のみならず全ての生徒を対象とした情報共有を進め、教員間の共通理解を深め、合理的配慮を推進した。また、産婦人科医派遣事業、がん教育、保健講話など外部の専門家を講師に招き生徒の健康促進、人命尊重の意識を高めた。
	(ウ)	清掃用具等の整備、清掃指導、美化活動、環境教育の充実により教育環境の整備を含め、生徒の健康安全を図った。
⑦ 学校経営 組織体制	(ア)	教員相互の授業参観（他教科を含む）に年2回以上取り組み、更にSDG s の教材を用いた研修会を実施し、授業力の向上を目指した。
	(イ)	生徒情報の共有化を図ることで個々の生徒状況を的確に把握し学校として対応した。
	(ウ)	教員が日々の職務において行政視点での取組を実現できるよう経営企画室職員との連携を推進することで、経営企画室職員との相互理解が進み、経営参画ガイドラインのステップ2を実現できた。
	(エ)	Microsoft Teams、TAIMSメール、Classi等を活用して、業務の効率化を図った。
	(オ)	教員全体の「働き方改革」に対する意識向上に努めた。また、「部活動ガイドライン」に従い、活動・指導時間の適正な管理に努めた。
	(カ)	産業医と連携して、定期健康診断やストレスチェックで課題のあった教員と面談し、業務縮減や心身の健康維持に対する具体策について指導・助言を行った。

2 今年度の数値目標と実績					
(1) 今年度の数値目標等					
項目		今年度の数値目標		今年度の 実績	昨年度の 実績
(1)	学習活動	①	授業満足度の向上に努め、生徒による授業評価での満足度を向上させる ■数値目標：80%	92.4%	87.7%
		②	授業を充実させ、原学年留置の生徒を減らす ■数値目標：0%	3.3%	2.6%
(2)	生徒指導	①	学校生活満足度の向上に努め、学校評価アンケートでの満足度を向上させる ■数値目標：80%	90.3%	88.6%
		②	生活指導を充実させ、中途退学者数を減らす ■数値目標：5%	0%	10.5%
		③	遅刻者数を減少させる ■数値目標：1日1クラスあたり2人未満 ■数値目標：年間遅刻30回以上15人未満	1.6人 (1日) 2人 (年間)	1.0人 (1日) 8人 (年間)
(3)	進路指導	①	進路指導満足度の向上に努め、学校評価アンケートでの満足度を向上させる ■数値目標：80%	72.3%	77.8%
		②	就職指導を充実させ、就職希望者の決定率を100%にする ■数値目標：100%	75%	100%
(4)	募集対策	①	教員全員が中学校訪問を実施し、本校への理解を求める ■数値目標：60校	40校	48校
		②	第一次募集での応募者数を確保する ■数値目標：応募倍率1.0倍以上	0.3倍	0.27倍
		③	学校説明会、授業見学会について学校HPやX(旧twitter)等を利用して広く確実に広報し、来校者数を増やす ■数値目標：来校者数50人	30人	18人
(5)	学校運営	①	学校HPやX(旧twitter)、Classiを活用し、積極的に学校の状況を情報発信する ■数値目標：更新回数150回 ■数値目標：アクセス件数100,000件以上	HP 229回 X 90回 48,834回 73,284回	HP 165回 X 114回 34,059回 81,723回

(2) 過去の実績								
			R2	R3	R4	R5	R6	目標値
(1)	①	生徒の授業満足度	80.0%	80.0%	86.0%	87.7%	92.4%	80%
	②	原級留置者	1.2%	6.3%	3.5%	2.6%	3.3%	0%
(2)	①	生徒の学校生活満足度	78.6%	90.4%	86.2%	88.6%	90.3%	80%
	②	中途退学率	1.2%	4.8%	3.6%	10.5%	0%	5%
	③	遅刻者数（1クラスあたり）	1.9人	0.8人	1.5人	1.0人	1.6人	2人未満
		年間遅刻30回以上	15人	8人	12人	8人	2人	15人未満
(3)	①	進路指導満足度	76.4%	83.1%	82.6%	77.8%	72.3%	80%
	②	就職希望者の決定率	100%	100%	81.9%	100%	85.7%	100%
(4)	①	中学校訪問	14校	3校	15校	48校	40校	60校
	②	第一次募集での応募倍率	0.17倍	0.3倍	0.3倍	0.27倍	0.3倍	1.0倍以上
	③	学校説明会等の来校者数	4人	8人	25人	18人	30人	50人
(5)	①	更新回数 学校HP X(旧twitter)	121回	143回	90回	165回 114回	229回 90回	150回
		アクセス件数 学校HP X(旧twitter) インプレッション数	495,023件	594,095回	21,096回	34,059回 81,723回	48,834回 72,284回	100,000件以上

(3) 卒業生の進路状況																
	区 分	R2 年度			R3 年度			R4 年度			R5 年度			R6 年度		
		男	女	計	男	男	女	計	男	男	女	女	計	男	女	計
就職	新規	3	1	4	1	1	2	5	0	5	3	1	4	3	0	3
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進学	大学・短大	2	1	3	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	2
	各種・専門学校	4	4	8	3	1	4	2	0	2	6	1	7	1	0	1
自営		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		2	4	4	8	1	4	5	10	5	3	1	4	1	0	1
計		20	13	10	23	5	7	12	17	5	13	3	16	6	1	7

3 次年度以降への課題と対応策			
	重点項目	成果と課題	改善策
(1)	出口指導の強化	【成果】 ・各学年の進路指導計画表である進路カレンダーを作成し、進路行事を実施。 ・面接指導を進路指導部中心に行った。 ・学校としての進路計画を実践することができた。 【課題】 ・進路目標の早期醸成。 ・就職希望者に関する指導体制の構築。 ・進学希望者に関する指導体制の構築。	・4学年担任を中心とし、進路指導部のみならず全教職員による組織的な指導体制を確立するとともに、日程や必要書類などについて保護者との情報共有をすすめ、確実な進路指導を推進する。 ・1学年から将来の自分の在り方、生き方について考えさせることで、自分の進路を選択できる態度を育てる進路指導を展開していく。
(2)	部活動の活性化	【成果】 ・球技部の活動をととして、生徒が主体的に球技大会の運営に関われた。 【課題】 ・部員の確保 ・定通主催の大会への出場 ・部活動の精選	・70%の部活動加入率を上げるため、新入生のみならず在校生への勧誘活動を活発化させる。また、学校HPやX(旧twitter)を活用して、活動内容の情報発信を行う。

(3)	学力向上の支援	【成果】 ・きめ細かな生活指導の充実 ・生徒の学力を丁寧に把握 ・双方向の授業展開 【課題】 ・基本的生活習慣の確立を徹底 ・教科科目による取組の差	・全教職員での、①遅刻者を減少させるための登校指導の充実、②授業以外での教員による声掛けの実施、③家庭への細やかな情報提供④教員間の情報共有と生徒理解について、組織的に実施する。
(4)	感染症対策	【成果】 ・校内換気の徹底 【課題】 ・家庭内での感染症対策	・校内において、3密の回避、正しい手洗いの指導を徹底することで、校外（特に家庭内）での行動にも変容を促す。
(5)	情報発信	【成果】 ・学校HPやX(旧twitter)において、情報発信を行い、学校HPでは48,000回以上のアクセスを得た。 ・学校HPやX(旧twitter)の更新にできるだけ多くの教員が携わった。 ・在校生保護者あてにはClassiをできるだけ多く使用し、学校行事等の案内や注意啓発ポスターの提示等を随時行なった。 【課題】 ・アクセス数を更に増やす	・入学希望者を増やすため、本校の教育活動をより露出していく必要がある。今年度はXアカウント「東京都子供・教育」で本校の投稿をリポストしてもらった際に表示回数が伸びた。そのため、より大きな媒体で学校HPやX(旧twitter)を紹介してもらう必要がある。